

新約聖書 ヨハネによる福音書 15章9節—12節 (新共同訳)

⁹父がわたしを愛されたように、わたしもあなたがたを愛してきた。わたしの愛にとどまりなさい。¹⁰わたしが父の掟を守り、その愛にとどまっているように、あなたがたも、わたしの掟を守るなら、わたしの愛にとどまっていることになる。

¹¹これらのことを話したのは、わたしの喜びがあなたがたの内にあり、あなたがたの喜びが満たされるためである。¹²わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。これがわたしの掟である。

※第1朗読と第2朗読は末尾に掲載

説教「平和を実現し」

フランスの修道女のリジューのテレーズは、こう述べています。「あなたがわたしを愛してくださったように／あなたを愛するには、／あなた自身の愛を拝借するよりほかはありません」(『リジューのテレーズ 365の言葉』58ページ)。

この「あなた自身の愛を拝借する」という表現は印象深いです。「あなた」とはイエスのことであり、イエスの愛を拝借して、イエスを愛するということです。

私たちはイエスの愛のうちに既にいます。本日の福音書に記されている「わたしの愛にとどまりなさい」というイエスの言葉は、私たちが既にイエスの愛のうちにいる、そのことを前提とした上で語られたものです(ヨハネ 15:9)。

イエスはここで、「わたしの掟を守るなら、わたしの愛にとどまっていることになる」という言い方をしていますが、これは決して「もし～するならば」という条件付きの愛を表しているではありません。私たちのために十字架上で死に、そのことによって無償の愛を示されたイエスの愛は、いつも無条件の愛です。

マタイ福音書 5章 45節で言われているように、神は「悪人にも善人にも太陽を昇らせ」てくださいます。

しかし、太陽のように無条件な神の愛が、悪人にも善人にもまんべんなく注がれていても、もし私たちの方が心を閉ざしてその光を遮っているならば、その光は私たちの心の内に射し込んできません。

その光が私たちにとって現実のものとなるには、その光に対して私たちが心を開かねばならないのです。それと同じように私たちの側でも、イエスの愛を自らのものにするには、イエスの愛に心を開き、その掟を守らなければなりません。「わたしの掟を守るなら」とは、そのような意味であると思います。

ここでイエスが言った「わたしの掟」とは何でしょうか（ヨハネ 15:10）。イエスはそれを次の言葉で明確に示します。「わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。これがわたしの掟である」（ヨハネ 15:12）。イエスの掟とは、私たちが互いに愛し合うことです。

ヨハネ福音書 4 章 34 節でイエスは「わたしの食べ物とは、わたしをお遣わしになった方の御心を行い、その業を成し遂げることである」と言いました。イエスにとって、父なる神の命令に従うことは、イエスの食べ物のようなものでありました。

それと同じように、私たちがイエスの掟を守るとは、何か大変なことや難しいことを背負い込むことではなく、心と魂を養う食べ物を与えられることなのです。

「これらのことを話したのは、わたしの喜びがあなたがたの内にあり、あなたがたの喜びが満たされるためである」とイエスは言います（ヨハネ 15:11）。

ここで満ちあふれるものは喜びです。イエスの喜びとは、父なる神の愛にとどまっていることです。

私たちの喜びは満たされていかなければなりません、イエスの喜びは最初から満たされています。神の喜びは常に完全なのです。

イエスの愛によって私たちの心に喜びが満ち溢れます。愛は喜びを溢れさせ、喜びは愛と共にあります。真（しん）の喜びには、必ず愛が伴います。愛される喜びと愛する喜びはひとつです。イエスの喜びは、弟子たちを愛する喜びです。そして弟子たちの喜びは、イエスに愛され、イエスを愛することです。

神は天地創造のとき、エデンの園を造られました（創世記 2:8）。エデンは「喜び」「幸福」という意味です。神が本来人間のために造られたものは、美しく、完全な、良いものでした。本来、私たちは喜びに満たされて生きる者として造られたのです。

人間にとって、最大の喜び、無上の喜びを感じるのはどのような時でしょうか。

それはやはり、自分が愛されていると感じる時、自分が愛を感じている時ではないでしょうか。

喜びと愛は、互いに切り離されることがありません。たとえば、人の不幸を喜ぶなどの愛が伴わない喜びは、本当の喜びではありません。

大きなことから小さなことまで、私たちが何かに喜びを見出している時は、愛を見出している時なのです。

人間の心のうちには、喜びや悲しみ、不安や恐れ、愛や憎しみなど、様々なものがあります。

自己の内側が、いつどんな時でも、愛と喜びのみに溢れている人はいないと思います。

私たちは、日々の中で、心のうちが不安や恐れに支配されることがあるでしょう。

ですがそんな時は、今この瞬間はそうでも、このあと必ず心のうちが、愛と喜びに満たされる時があることを信じてください。

一日の中において、人生の中において、私たち人間の心のうちが愛と喜びに満たされる時があるということが、神から人間に与えられた大きな恵みなのではないでしょうか。

イエスが私たちと共に分かち合ってくださいる喜びに満たされながら、私たちはこの地上での日々を、愛と希望をもって歩んでいきましょう。

お祈りをいたします。

天の父なる神様。あなたは、悪人にも善人にも太陽を昇らせ、その愛を、私たちが自らのものとする掟を与えてくださいました。私たちが、御子をお遣わしになった父の御心を行い、それを最後まで成し遂げることができますように。救い主 御子イエス・キリストによって祈ります。アーメン

***** 説教ここまで *****

以下、本日に関連する聖書箇所（第1朗読と第2朗読）です。

旧約聖書 ミカ書 4章1節—5節（新共同訳）

¹終わりの日に／主の神殿の山は、山々の頭として堅く立ち／どの峰よりも高くそびえる。もろもろの民は大河のようにそこに向かい／²多くの国々が来て言う。「主の山に登り、ヤコブの神の家に行こう。主はわたしたちに道を示される。わたしたちはその道を歩もう」と。主の教えはシオンから／御言葉はエルサレムから出る。³主は多くの民の争いを裁き／はるか遠くまでも、強い国々を戒められる。彼らは剣を打ち直して鋤とし／槍を打ち直して鎌とする。国は国に向かって剣を上げず／もはや戦うことを学ばない。

⁴人はそれぞれ自分のぶどうの木の下／いちじくの木の下に座り／脅かすものは何もないと／万軍の主の口が語られた。⁵どの民もおのおの、自分の神の名によって歩む。我々は、とこしえに／我らの神、主の御名によって歩む。

新約聖書 エフェソの信徒への手紙 2章13節—18節（新共同訳）

¹³しかしあなたがたは、以前は遠く離れていたが、今や、キリスト・イエスにおいて、キリストの血によって近い者となったのです。

¹⁴実に、キリストはわたしたちの平和であります。二つのものを一つにし、御自分の肉において敵意という隔ての壁を取り壊し、¹⁵規則と戒律づくめの律法を廃棄されました。こうしてキリストは、双方を御自分において一人の新しい人に造り上げて平和を実現し、¹⁶十字架を通して、両者を一つの体として神と和解させ、十字架によって敵意を滅ぼされました。¹⁷キリストはおいでになり、遠く離れているあなたがたにも、また、近くにいる人々にも、平和の福音を告げ知らせられました。¹⁸それで、このキリストによってわたしたち両方の者が一つの霊に結ばれて、御父に近づくことができるのです。

教会讃美歌 328番「主イエスにしたがう」、320番「しあわせなことよ」、238番「いのちのかて」、337番「やすかれ」。